

【モニタリングレポート】

地域金融機関 CLO シンセティック型 (株式会社こすもす 2007) (平成 19 年度大分県 CLO 含む)

第 1 回 A 号無担保社債 (責任財産限定特約付及び適格機関投資家限定) : A A A

第 1 回 B 号無担保社債 (責任財産限定特約付及び適格機関投資家限定) : A A A

格付投資情報センター(R&I)は上記の債券のモニタリングレポートを公表しました。

【コメント】

発行日(2007年9月27日)から2010年3月8日までの期間における裏付資産の累積クレジットイベント債権の発生率は約6.16%であり、このほか、計算期間末日時点でクレジットイベント通知債権が2件、延滞債権が3件発生している。これらの債権をクレジットイベントに含めた場合、累積クレジットイベント発生率は約6.53%となる。

ただ現時点のA号社債、B号社債の信用補完には厚みがあることから、今回格付は維持する。

【格付対象】

発行者	株式会社こすもす 2007
名称	第 1 回 A 号無担保社債 (責任財産限定特約付及び適格機関投資家限定) 第 1 回 B 号無担保社債 (責任財産限定特約付及び適格機関投資家限定)
金額	第 1 回 A 号無担保社債:1,025,782,940 円(当初 65 億円) 第 1 回 B 号無担保社債: 5,956,339 円(当初 0.1 億円)
発行日	2007 年 9 月 27 日
予定償還期日	2010 年 11 月 1 日
最終償還期日	2011 年 1 月 4 日
償還方法	パススルー (A 号無担保社債、B 号無担保社債の割合に応じたプロラタ償還)
裏付資産	クレジットデフォルトスワップ契約、預金
参照債務	中小企業が発行する貸付債権プール (269 件 1,421,983,000 円 当初:310 件 74.22 億円)
信用補完	優先劣後構造
オリジネーター	岩手銀行、※大分銀行、北日本銀行、※豊和銀行、宮崎太陽銀行、福島信用金庫、千葉信用金庫、尾西信用金庫、滋賀中央信用金庫、大阪信用金庫、淡路信用金庫、※大分みらい信用金庫 ※「平成 19 年度大分県 CLO」参加金融機関
スワップカウンターパーティー	各オリジネーター
私募の取扱者	みずほ証券
格付	第 1 回 A 号無担保社債:AAA (個別信用補完:第 1 回 B 号無担保社債、第 1 回 C 号無担保社債、 免責金額(劣後比率 約 27.9%)) 第 1 回 B 号無担保社債:AAA (個別信用補完:第 1 回 C 号無担保社債、免責金額(劣後比率 約 27.4%))

お問い合わせ先 **格付投資情報センター** インベスターズ・サービス本部 〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-4-1 日本橋一丁目ビルディング

TEL.03-3276-3511 FAX.03-3276-3413 <http://www.r-i.co.jp> E-mail infodept@r-i.co.jp

信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等を約定通りに履行する確実性(信用力)に対するR&Iの意見の表明であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<http://www.r-i.co.jp/jpn/policy/policy.html>をご覧ください。

備考	格付は、最終償還期日までに第1回A号無担保社債、第1回B号無担保社債の元本が全額償還され、期日通りに利払いされる可能性を評価している。
----	---

【モニタリングのポイント】

本件では、元本と配当の受け取りの順にA号社債、B号社債、C号社債および免責金額を設定している。各社債について、それよりも元本の受け取り順位が低い社債の元本金額合計および免責金額が信用補完となっている。免責金額は、各参加金融機関が募集した債権プール（参照債務）に対応している。本件では12の参加金融機関が貸付債権の募集を行い、それぞれの参加金融機関に対応した12の免責金額を設定している。各免責金額は、対応する参加金融機関の貸付債権の損失のみを負担し、他の参加金融機関の貸付債権の損失を負担することはない。A号社債、B号社債およびC号社債は、各免責金額を超える損失を貸付債権を募集した参加金融機関によらず負担する。なお、CDS契約上の免責金額は4.72億円であり、期中に減額することはない。

モニタリングにあたっては、損失額に加え、その損失の分布（どの参加金融機関のプールの損失なのか）に着目し、各受益権の格付が妥当なものであるかどうかを確認している。

【経過と見通し】

発行日から計算期間末日までにクレジットイベント発生債権が28件、計算期間末日時点でクレジットイベント通知債権が2件、延滞債権が3件発生している。なお、一部金融機関のクレジットイベント発生債権の累計額が、当該金融機関の免責金額を超過している。

本件は案件期間中に、A号社債・B号社債の信用補完部分であるC号社債及び免責部分の償還が原則行われなため、時間経過に伴い、A号・B号の劣後比率が上昇しやすい構造である。

標準シナリオを2009年8月に見直した。A号社債、B号社債は現在の格付を付与するのに十分な信用補完を確保している。R&Iでは、本件のクレジットイベントの発生状況を引き続き注視する方針である。

裏付資産の状況は以下のとおりである。

	2007/9/27	2010/3/8
参照債務残高	7,422,000,000 円	1,421,983,000 円
参照債務残高率	100%	19.16%
クレジットイベント通知後未認定債権元本金額	0 円	4,488,000 円
クレジットイベント通知後未認定発生率	0%	0.32%
延滞債権元本金額	0 円	22,809,000 円
延滞率	0%	1.60%
累積クレジットイベント債権元本金額	0 円	457,344,268 円
累積クレジットイベント発生率	0%	6.16%
債務者数	310 件	269 件

元本残高率：

計算期間末日の元本残高／当初債権元本残高

クレジットイベント通知後未認定債権元本金額：

計算期間末日でクレジットイベント通知後未認定である債権元本金額

クレジットイベント通知後未認定発生率：

計算期間末日でクレジットイベント通知後未認定である債権元本金額／計算期間末日の債権元本残高

延滞債権元本金額：

計算期間末日時点で3カ月未満の延滞である債権の元本金額

延滞率：

計算期間末日の延滞債権元本金額／計算期間末日の債権元本残高

累積クレジットイベント債権元本金額：

計算期間末日時点のクレジットイベント発生債権の累計元本金額

累積クレジットイベント率：

計算期間末日の累積クレジットイベント発生債権元本金額／当初債権元本残高

クレジットイベント債権：

クレジットイベント債権は、参照債務の借入人（参照組織）について CDS 契約に定められた信用事由（法的破綻、参照債務の 3 カ月以上の延滞、リストラクチャリング等）が発生した債権をいう。